

# 『いつもの風景がアレレ?』 第5学年2学級56名

平成20年7月9日

千代田区立九段小学校

## 竹内とも子教諭の授業

この題材の活動内容は、まず校庭のある場所を選び、その場所の特徴を生かして、美しさや楽しさを考えながら造形的に変容させてしまおうということです。4人〜6人程度の小グループごとに、3回の授業6時間をかけてつ

くりました。そして、その鑑賞活動として、構成した空間を美しい・楽しい・面白い・不思議などと感じられるように写真に撮りました。カメラを持って見ること、自分たちの造形的な動きかけによって空間がどのように変容したのか、見方によって空間の感じられ方がどのように違うのかを、積極的に感じ取ろうとするだろうと考えました。近付いて空間の一部を切り取り撮影したもの。離れてまわりの環境も含めて撮影したもの。上からあるいは下から撮影したもの。風や水の流れ、光のきらめきなどの一瞬を捉えたもの。子どもたちは写真を撮る活動を通して多様な見方を試し、自分らしい空間の感

じ方を味わっている様子でした。

次の週には、2枚選んでプリントした写真と、造形活動を通して感じたことや考えたことを、4ツ切りの色画用紙に構成しました。指導計画では、写真に文章のみを付けることを想定していましたが、写真に合った台紙の色を選ぶことから造形的な表現も始まっていたようです。すぐに写真に合った絵が描かれたり、紙などの材料の特徴を生かした造形表現が生まれたりしました。その後、それらを互いに見合い、自分とは違う友達の見方・感じ方・考え方に触れる―まなざしを共有することができました。

造形活動に写真を取り入れることを

通して、子ども達は、自分の見方によって、あるいはそれぞれの人によって多様な見方・感じられ方があることに改めて気付くことができました。また、本実践で、写真から新たな造形表現活動も促されていくことがわかり、写真を造形活動に取り入れることのも多様な可能性を感じました。



竹内とも子教諭  
写真/鈴木英雄

